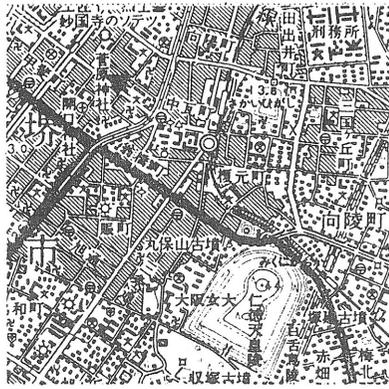


大阪・堺環濠都市遺跡



(大阪西南部)

堺環濠都市遺跡は、南北3km、東西1km、標高2.0~5.0mの堺砂堆上に立地する。一九八二年に㈱大阪冠婚葬祭互助会ビル新築工事にともない、堺市教育委員会が事前発掘調査を実施した。応永の乱勃発(二三九九年)以降、豊臣氏滅亡(一六一五年)までの約二〇〇年間を中心とする遺跡であるが、砂堆背面に形成された後背湿地からは弥生時代から鎌倉時代までの

- 1 所在地 大阪府堺市市之町東四丁一六・二〇・二二
- 2 調査期間 一九八二年(昭57)七月~十一月
- 3 発掘機関 堺市教育委員会
- 4 調査担当者 北野俊明・野田芳正
- 5 遺跡の種類 環濠都市遺跡
- 6 遺跡の年代 一四世紀~一八世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

遺物も出土しており、遺跡周辺における歴史の古さをうかがわせる。調査の結果、当地点では現況GL下約一・〇mで段丘層が検出され、遺構は、これをベースに形成されている。遺構面は、大きく上・下に二分され、その年代観は、上層遺構が一八世紀代に、下層遺構が一六世紀後半~一七世紀初頭に比定される。当該遺物は、調査区南西隅より検出された堀(下層遺構)から三〇〇〇点の木製品とともに出土した。

8 木簡の釈文・内容

(1) ・「天正十三 []」

・「天正十三^[十カ]月吉 []」

81×16×3

(2) ・「△ []」
八郎^[衛門尉カ] [] [] [] []

・「▽ []」
入 [] [] [] [] []

(70)×33×4

9 関係文献

堺市教育委員会『堺市文化財調査報告 第二十集』(一九八三年)

(野田芳正)

1984年出土の木簡

